

「ドナーミルクを安全に使用するための体制構築に関する調査研究」結果報告

宮田昌史^{1,2)}、早川昌弘^{1,3)}、田中太平^{1,4)}、山田恭聖^{1,5)}

1)東海ネオフォーラム、2)藤田医科大学医学部小児科学、3)名古屋大学医学部附属病院周産期母子医療センター、4)日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院小児科、5)愛知医科大学病院周産期母子医療センター

【目的】2019年に「早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言」が日本小児医療保健協議会栄養委員会から出された。将来的な愛知県での母乳バンクの設置の必要性の検討のため、愛知県の21のNICU施設で構成する東海ネオフォーラムでドナーミルクの需要を把握するための調査を行った。

【方法】2020年度から2022年度にかけて、東海ネオフォーラムで母乳バンク会員となり東海ネオフォーラム参加各施設でドナーミルクが利用できる体制を整え、ドナーミルクの利用について、病院内の手続き、ドナーミルクの使用法・管理法について適宜支援した。2020年、2021年、2022年のドナーミルク利用経験施設数、各年次の母乳バンクからのドナーミルク配送量について調査した。またドナーミルクを利用しなかった施設についてはその理由について質問した。2022年については利用症例数も調査した。

【結果】ドナーミルク利用経験施設は2020年4施設、2021年5施設、2022年9施設だった。愛知県へのドナーミルク配送量は2020年19430ml、2021年110520ml、2022年408990mlだった。2022年のドナーミルク利用症例数は170例だった（愛知県の極低出生体重児入院数444例）。ドナーミルクを利用しなかった理由としては、「対象となる症例がない」、「自母乳が許容できる時間内に届いていた」、「施設としてドナーミルクを利用できる体制ができていない」というものが多かった。

【結論】2022年12月の時点で、愛知県のドナーミルクを利用したことがある施設は全NICUの43%で全国（約20%）と比べて高い割合だった。入院対象症例の点でドナーミルクの必要性が高くないと感じている施設がある一方、必要としている施設には利用開始にあたっての支援が有用と考えられた。

(表)

施設	2020年		2021年		2022年		ドナーミルク利用開始
	利用人数	使用量 (ml)	利用人数	使用量 (ml)	利用人数	使用量 (ml)	
藤田医科大学病院	17	16910	35	95570	39	115170	2020年7月
名古屋大学医学部附属病院	-	2520	-	9310	14	18810	2020年7月
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	0	-	-	5630	41	144360	2021年12月
愛知医科大学病院	0	-	0	-	23	16580	2022年1月
愛知赤十字医療センター名古屋第二病院	0	-	0	-	41	95400	2022年1月
トヨタ記念病院	0	-	0	-	8	3220	2022年5月
刈谷豊田総合病院	2	-	1	-	3	9210	2020年10月
豊橋市民病院	0	-	0	-	1	4340	2022年7月
愛知赤十字医療センター名古屋第一病院	0	-	0	-	0	0	2023年1月
あいち小児保健医療総合センター	1	-	0	-	0	0	2020年10月
計	20+α	19430	36+α	110510	170	407090	

* 灰色は2022年1月～12月通してドナーミルクを利用した施設